

# 繊維産業の構造変化と 政策課題について

2021年11月

経済産業省

製造産業局生活製品課

**1. 繊維産業の現状**

**2. 本小委員会における主な検討項目（案）**

**3. 本日までご議論いただきたい内容**

# 国内繊維産業の強み

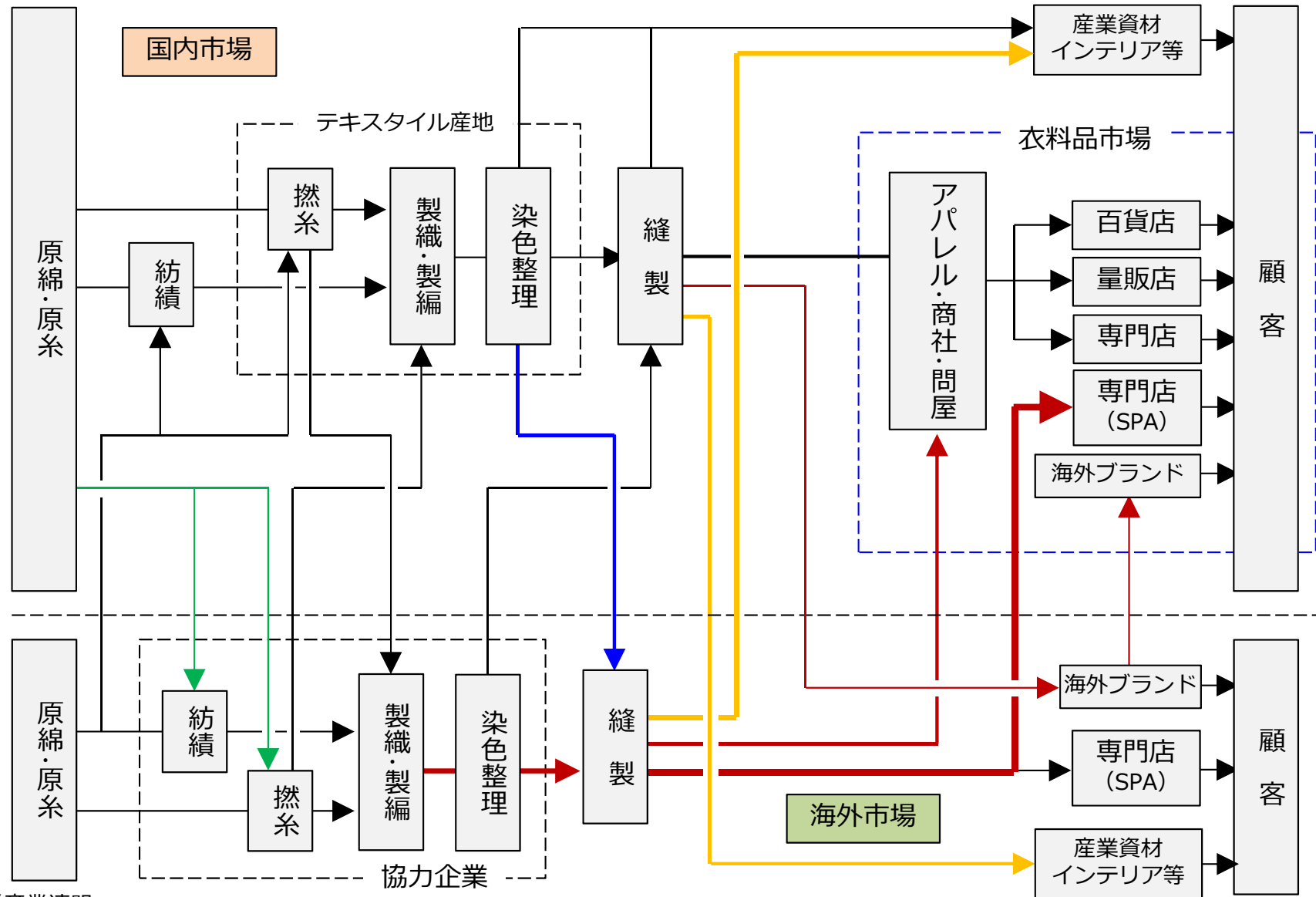
- 先進的な繊維の技術・製品を有している等、世界をリードしている。
- 繊細さや表現力は、海外ラグジュアリーブランドにも評価されている。

## 国内生産の優れている点

- 吸汗速乾、吸湿発熱、抗菌などの高機能繊維を生産。
- 綿・麻・毛・絹といった天然繊維から化学繊維まで幅広く扱い、特殊な細い糸の開発など、先進的な技術・製品を有している。デニムやレースなどの様々な製織能力やニットの生産能力、染色整理における繊細さや表現力が優れている。
- 縫製工程では、短期間で多品種への対応が可能。

# サプライチェーンの特徴

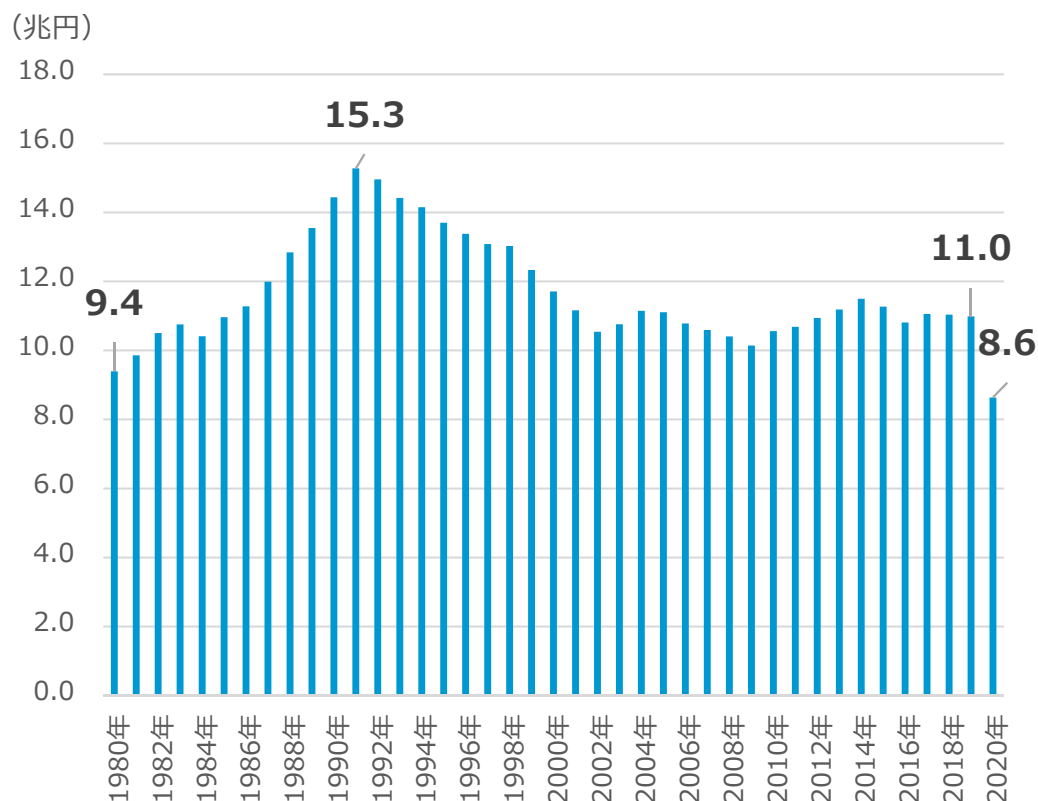
- 繊維産業のサプライチェーンは複雑な多段階構造となっており、中小企業が多く存在する。



# 市場規模、生産量の推移

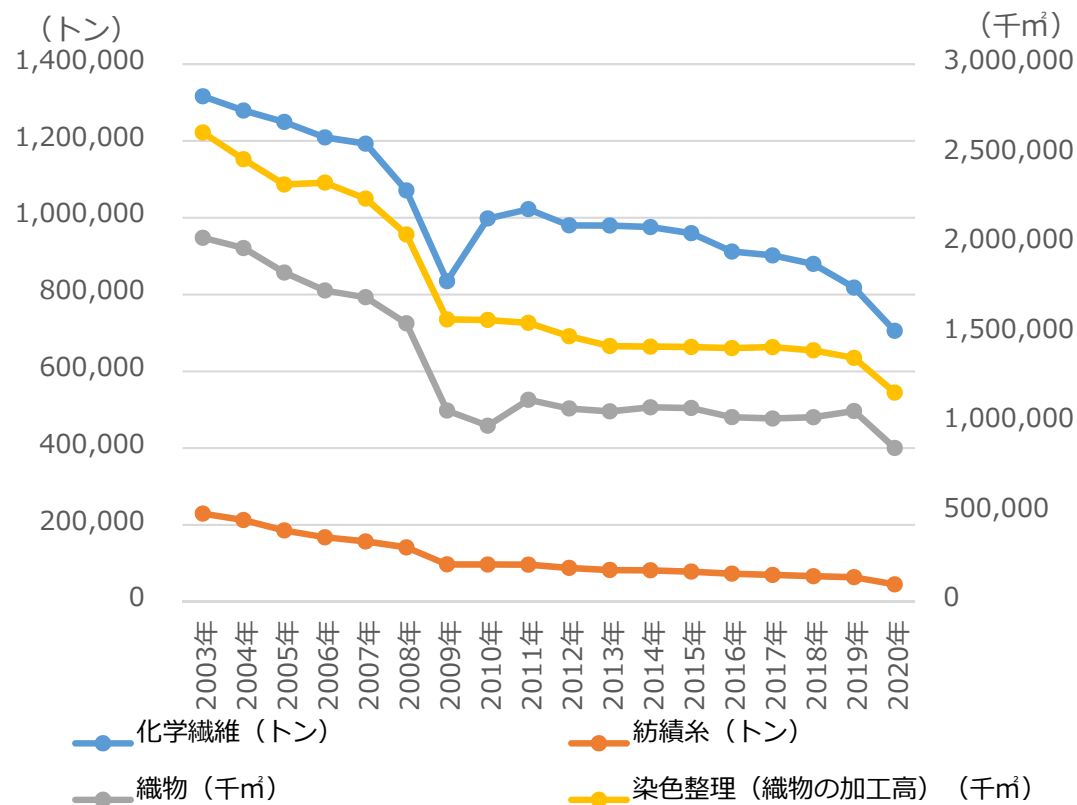
- 衣料品等の国内市場規模は、1990年代に入り減少傾向だったが、2000年代以降は基本的に横ばいの状態。
- 2020年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた。

## 衣料品等の国内市場規模推移



※ 織物・衣服・身の回り品小売業の推移  
資料： 商業動態統計

## 国内生産量等の推移

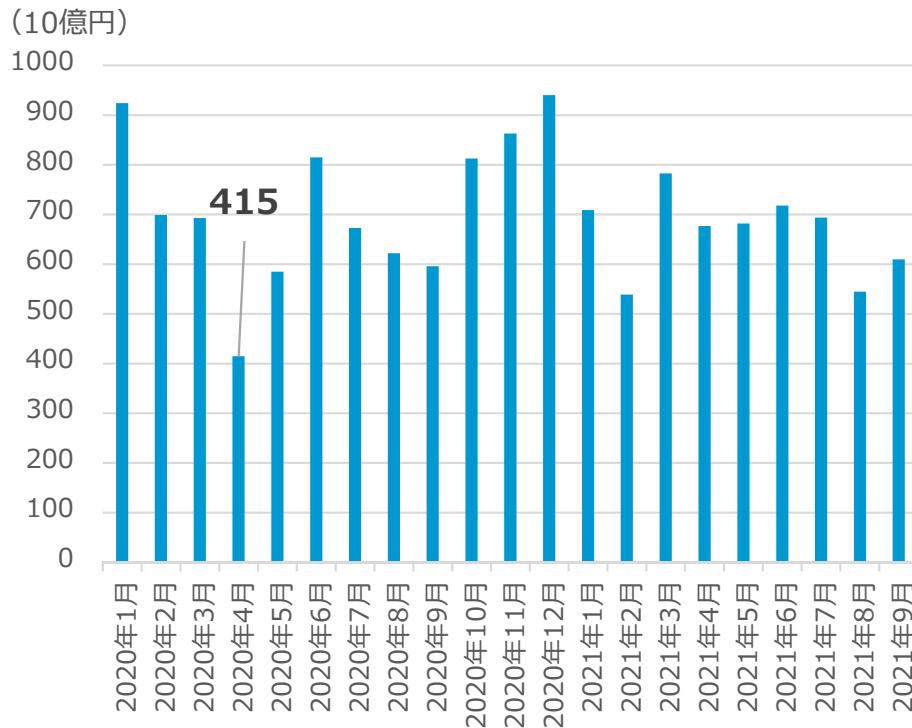


資料： 生産動態統計

# 新型コロナウイルス感染拡大の影響

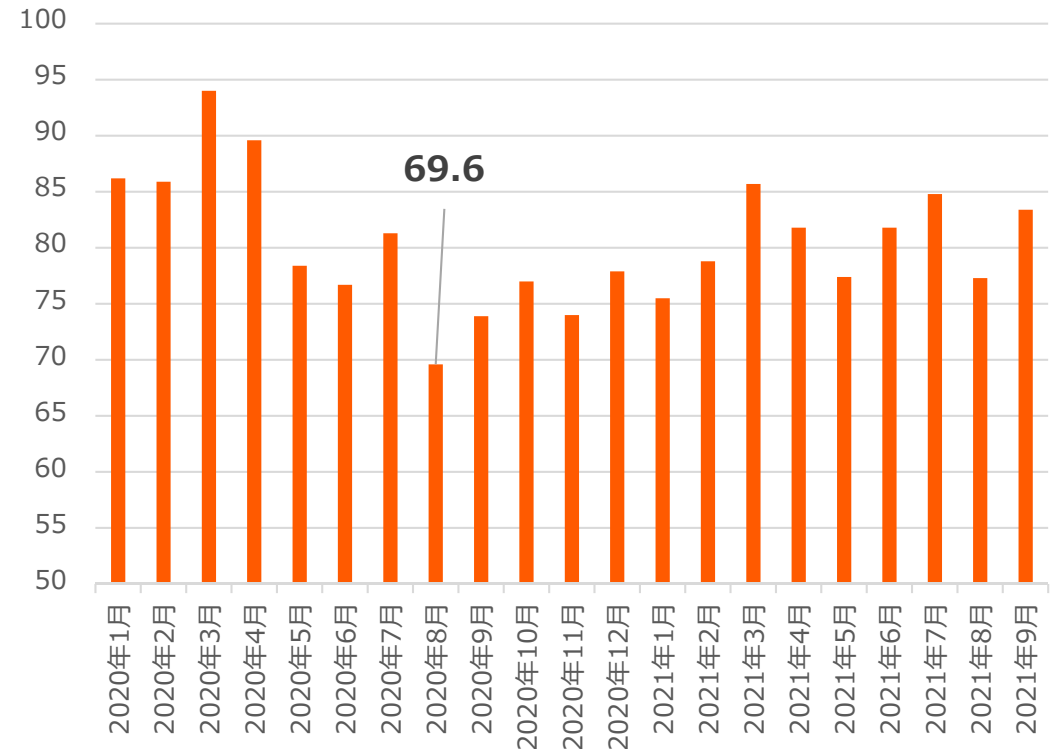
- 新型コロナウイルス感染拡大による影響などから、2020年1月以降、販売額は2020年4月、生産指数では2020年8月が底となった（2021年9月末時点）。
- “巣ごもり需要”などにより、カジュアルウェアの需要が高まった。

## 織物・衣服・身の回り品小売業の販売額推移



資料： 商業動態統計

## 繊維工業生産指数 (原指数 2015 = 100.0)

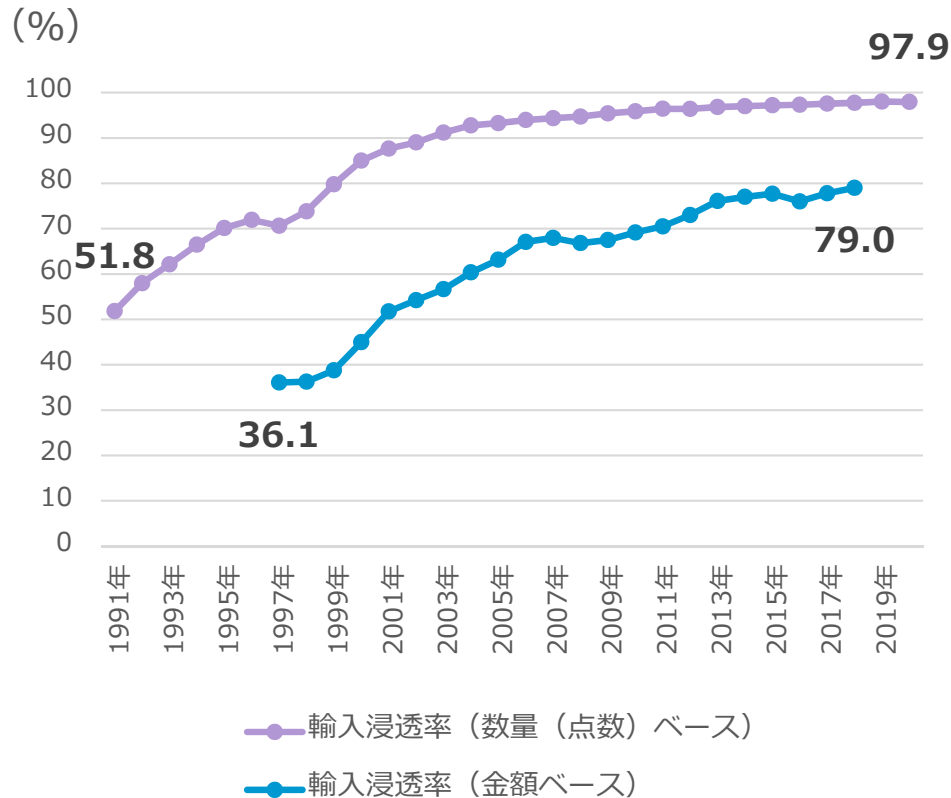


資料： 鉱工業指数

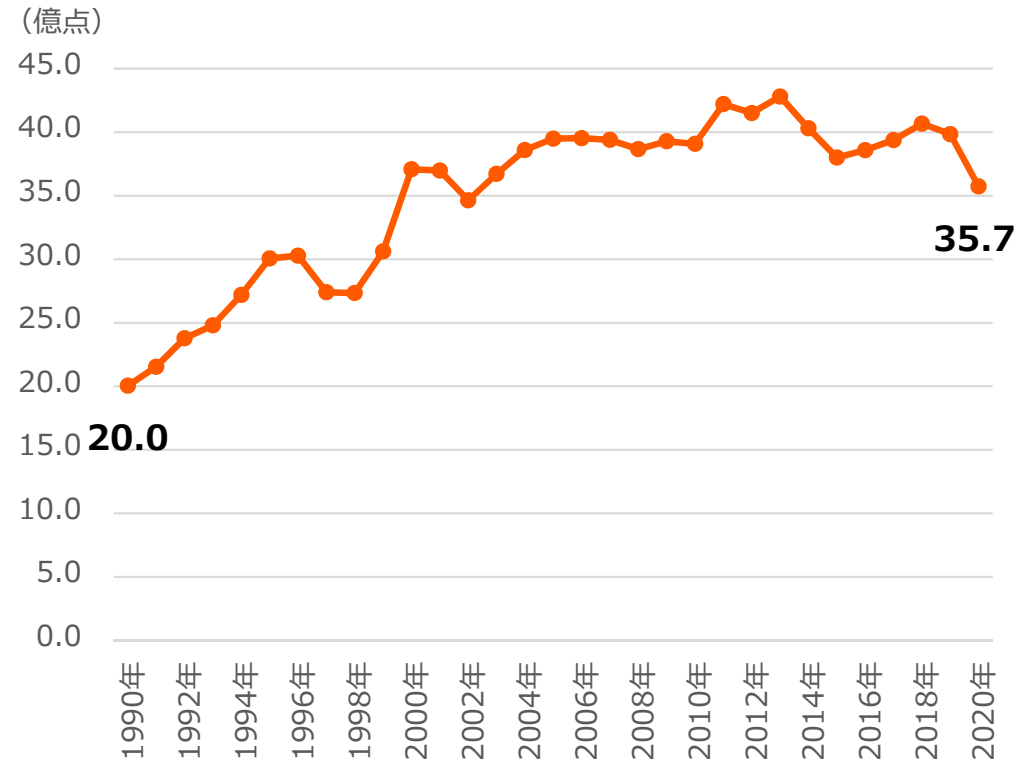
# 輸入浸透率、国内供給量の推移

- 生産拠点の海外移転の影響もあり、海外生産の割合が高まっている。
- 1990年に20億点だった国内供給点数は、2020年には1.5倍以上に増加している。

## 国内アパレル市場における衣料品の輸入浸透率



## アパレルの国内供給点数



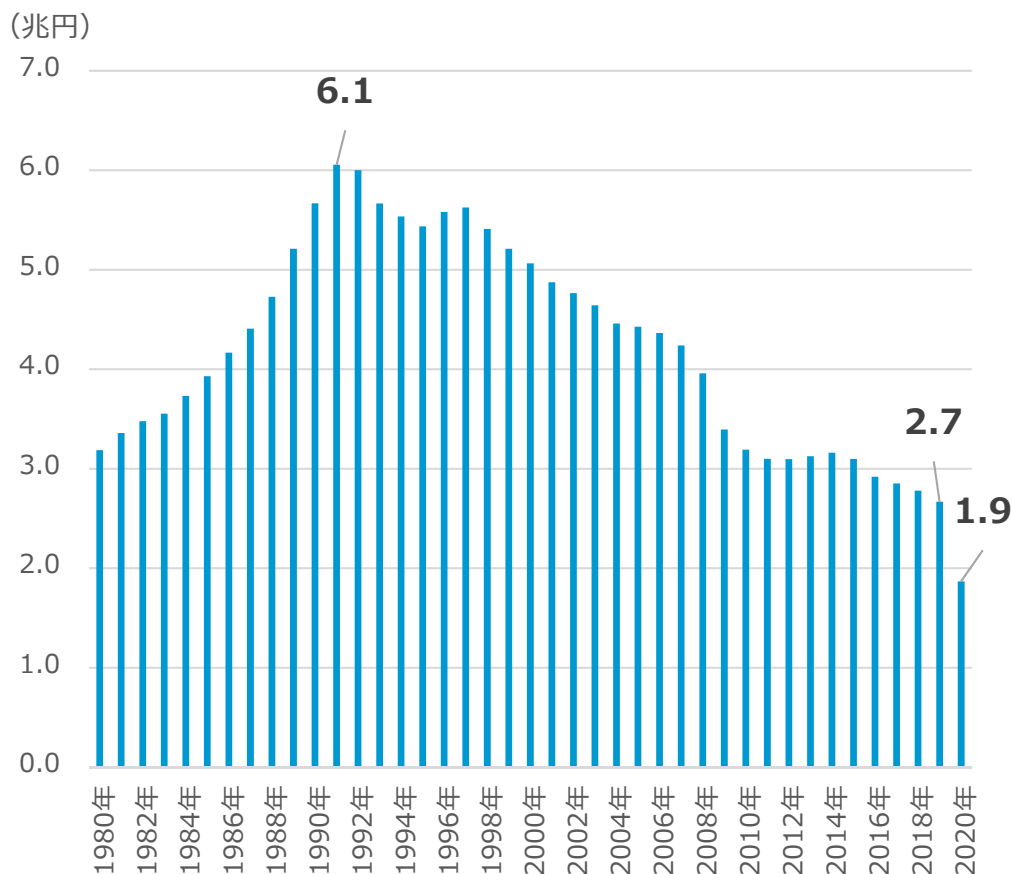
資料： 「日本のアパレル 市場と輸入品概況」 (日本繊維輸入組合)

資料： 「日本のアパレル 市場と輸入品概況」 (日本繊維輸入組合)

# 購入先の変化

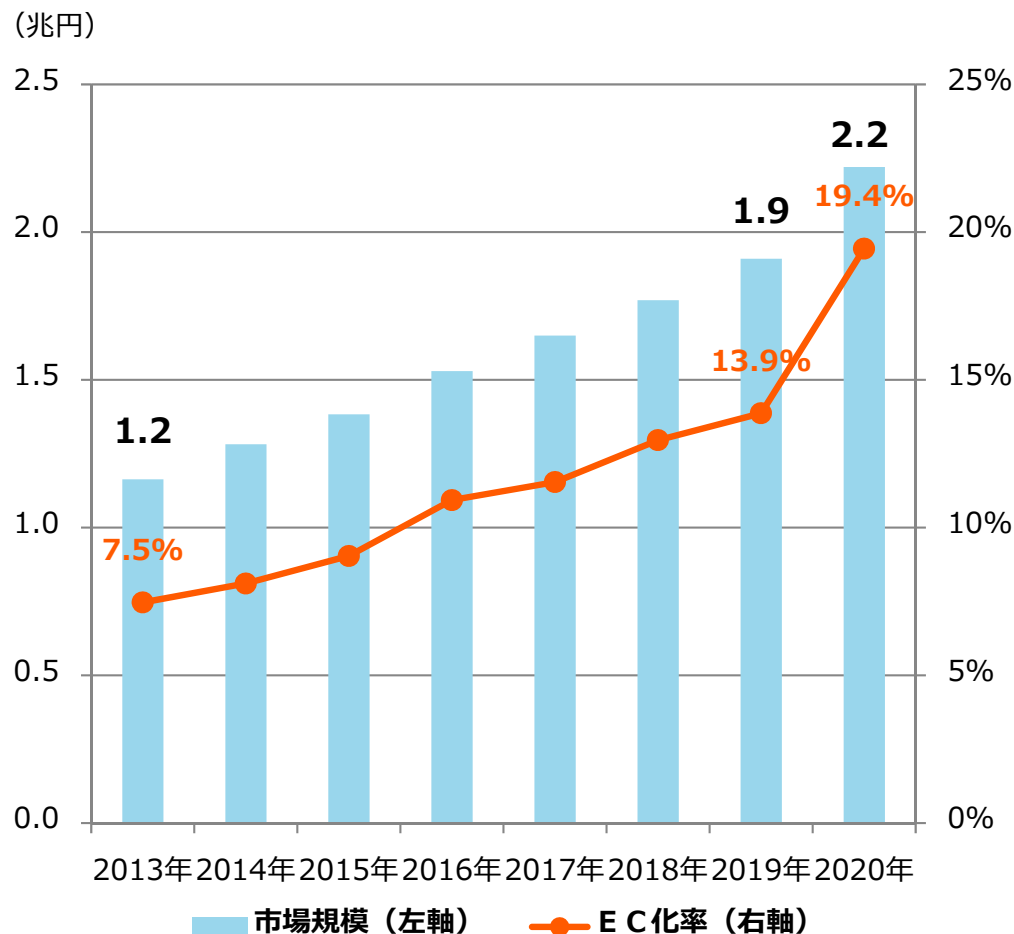
- 百貨店における衣料品の販売額は減っている一方、オンラインでの購入が拡大している。

## 百貨店における衣料品販売額の推移



資料： 商業動態統計

## 衣類・服飾雑貨等のEC市場規模及びEC化率



資料： 令和2年度電子商取引に関する市場調査



1. 繊維産業の現状
2. 本小委員会における主な検討項目（案）
3. 本日までご議論いただきたい内容

# 検討の方向性

- 衣料品、そして産業資材なども検討対象に入れ、変わりゆく産業構造や社会構造を踏まえた、2030年に向けた繊維産業の方向性を官民で共有し、戦略的に対応するため、以下の項目を中心に検討してはどうか。

## 本小委員会における主な検討項目（案）

### ①生産体制の環境整備

- 国内産地の在り方に関する検討
- 人材確保・人材育成の環境整備
- サプライチェーン・リスクへの対応

### ②新しい市場ニーズへの対応

- 新しい販売方法・市場への対応
- サステナビリティへの対応
- デジタル化への対応

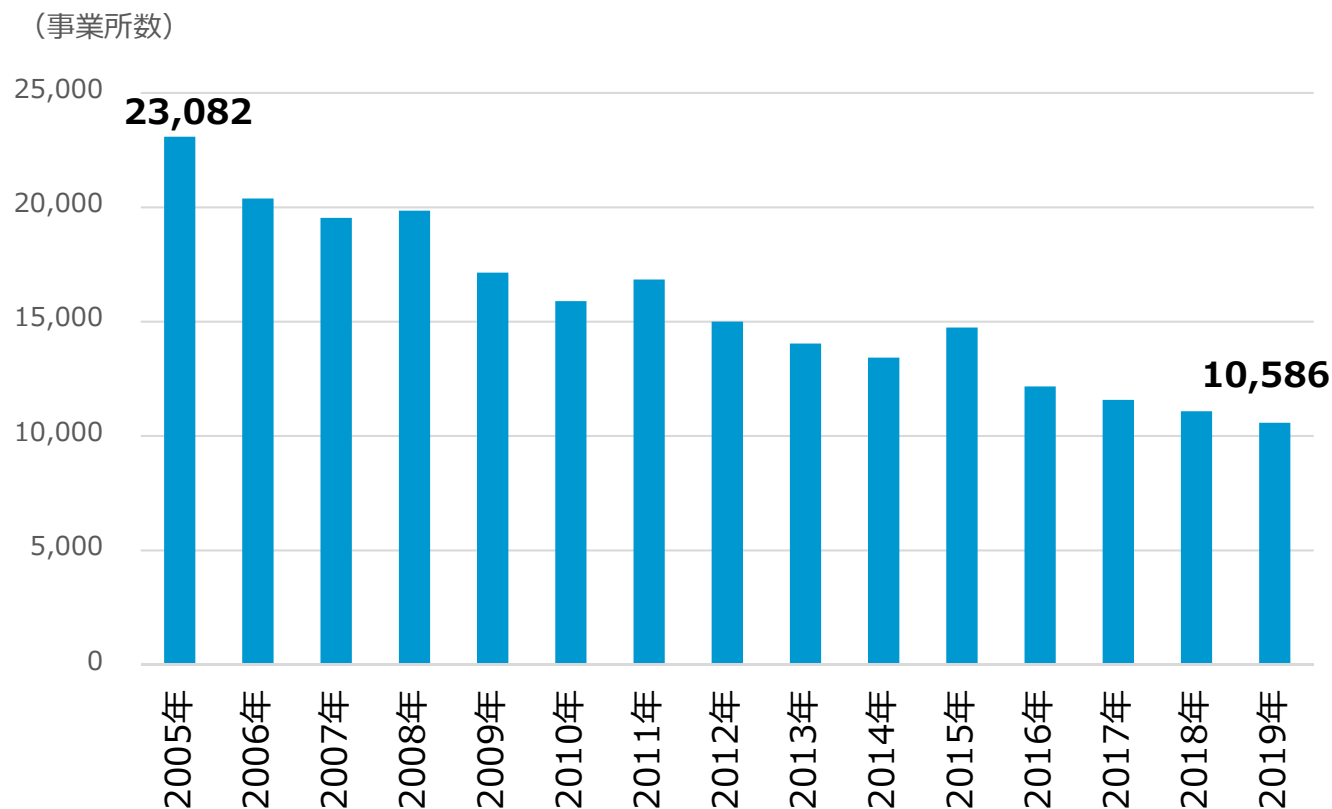
### ③新たな市場獲得への体制整備

- 海外展開の加速
- 技術開発の促進

# 国内産地の在り方に関する検討

- 国内における事業所数は、2005年と比較して、2019年には半分以下となった。
- 技術ある産地企業が残るよう、今後の産地の在り方を検討するべきではないか。

## 繊維工業における事業所数の推移



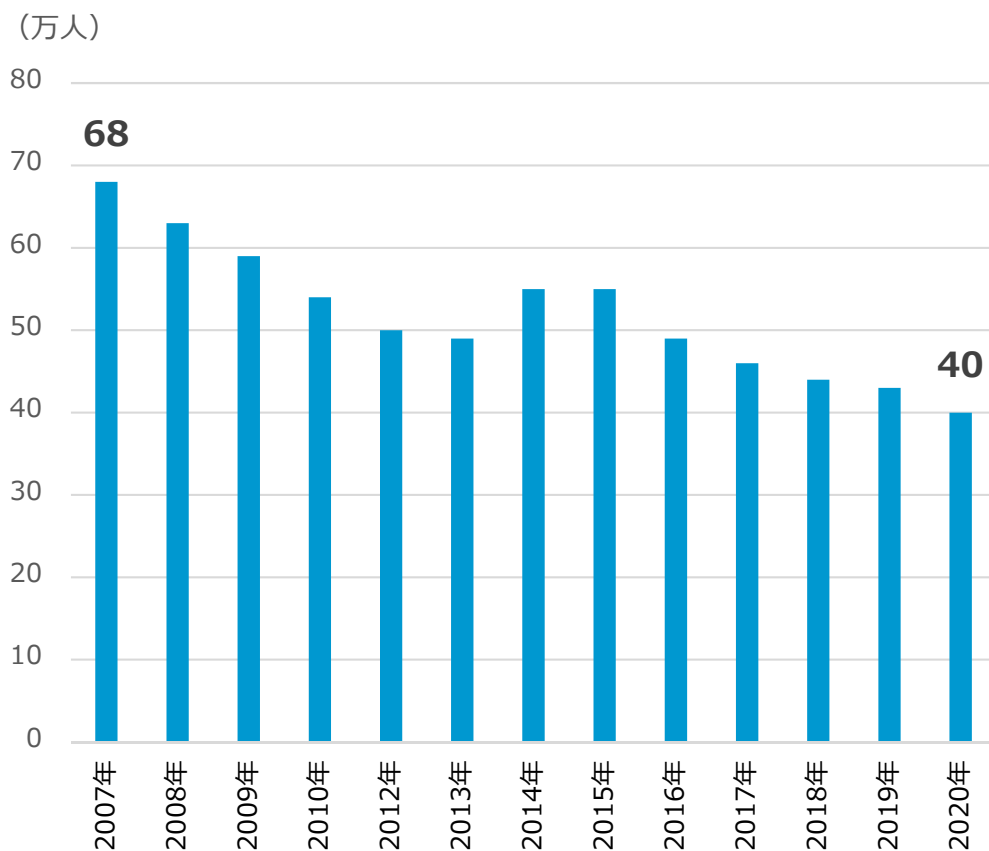
※ 従業者 4 人以上の事業所。

資料： 工業統計

# 人材確保・人材育成の環境整備

- 生産過程における就業者数は減少傾向にあるとともに、65歳以上の就業者数割合は増加しており、高齢化が進んでいる。
- 外国人技能実習制度の活用が進んでいる現状も踏まえ、今後の人材確保・人材育成の検討が必要ではないか。

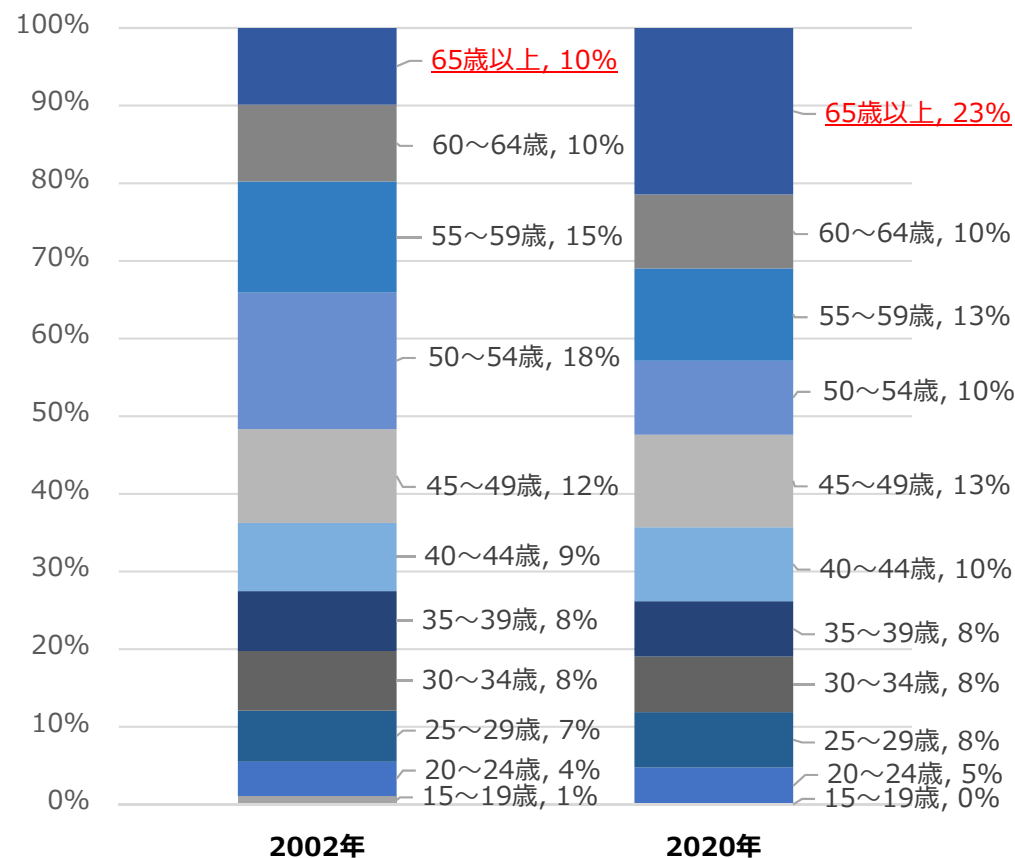
## 繊維工業における就業者数の推移



※ 東日本大震災の影響により、2011年データはなし。

資料： 労働力調査

## 繊維工業における人口構成の変化

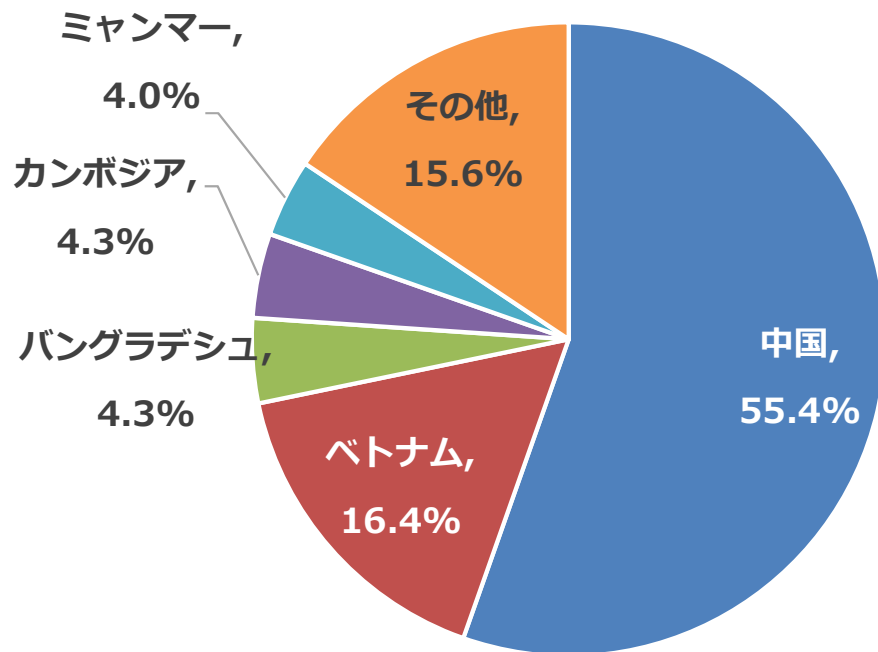


資料： 労働力調査

# サプライチェーン・リスクへの対応

- 海外からの衣料品の輸入は、中国からの輸入が50%以上を占める。
- ベトナムへの生産拠点移転などの動きがある中、新型コロナウイルス感染拡大の影響も出ている。
- 生産拠点の多元化や、国内回帰などの動きが重要になるのではないかな。

日本の衣料品における輸入相手国割合  
(2020年、金額ベース)



資料： Global Trade Atlas

## ベトナムにおける生産停止

- ベトナムのホーチミン市では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、操業規制や移動制限が実施され、生産停止等の影響が出た。
- こうしたベトナムでの生産停止の影響を受け、日本では納期遅れによる一部製品の販売延期が発生。
- また、規制等が実施された2021年7月～9月において、縫製品の対日輸出額は減少。

## ベトナムの対日輸出額推移 (2021年7～9月)

(単位：百万ドル)	7月	8月	9月
縫製品	267	239	204

24%減

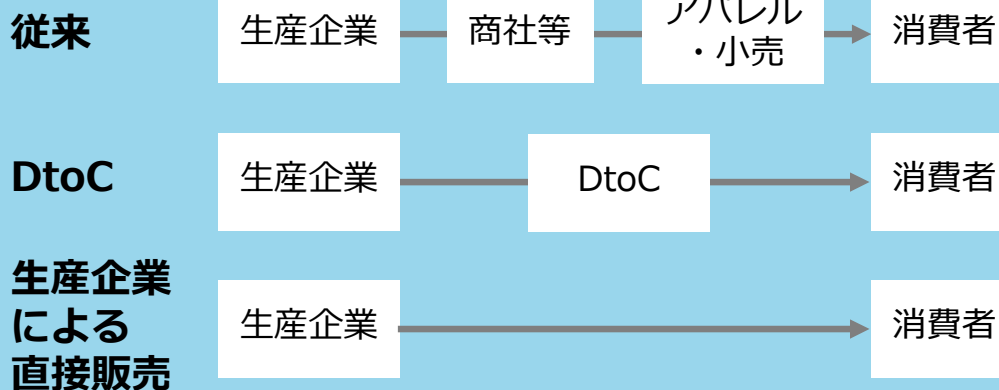
資料： 独立行政法人日本貿易振興機構ホームページを基に作成

# 新しい販売方法・市場への対応

- DtoC等の新しい販売方法や、スマートテキスタイルなどの新しい市場が拡大しつつある。
- オンライン販売が拡大する中での新しい販売手法や、社会状況を踏まえた市場ニーズを検討していくべきではないか。

## DtoC、生産企業による直接販売

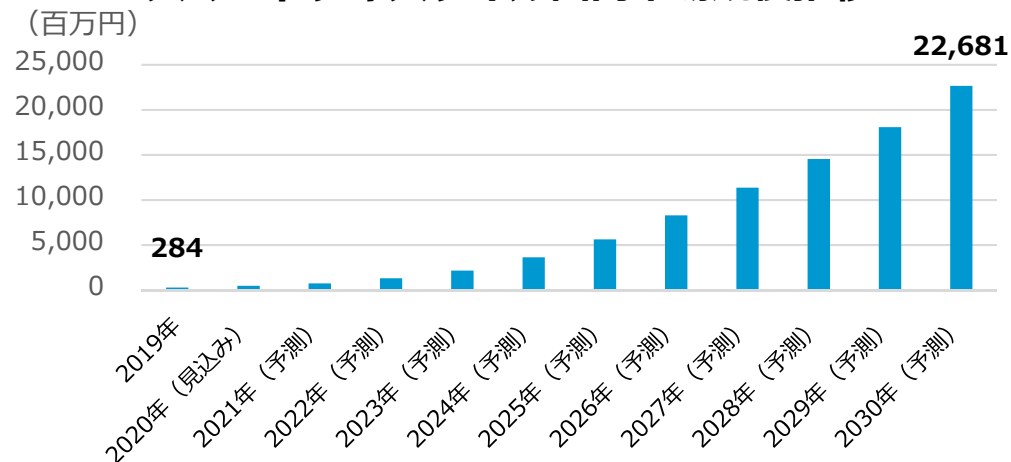
- DtoC (Direct to Consumer)と呼ばれる、自社企画商品を、自社ECサイト等を通じて消費者へ直接販売するビジネスモデルが出て来ている。
- 生産企業が自社ECサイトや店舗を通じて、販売する取組も始まっている。



## スマートテキスタイル等の市場拡大

- スマートテキスタイルを活用した衣料品を着用することで、心拍数等の把握が可能となる。今後スマートテキスタイル市場は拡大することが見込まれている。
- 吸水ショーツなど、フェムテックやフェムケア商品の展開が拡大している。

## スマートテキスタイル国内市場規模推移



資料： 「2020年版 スマートテキスタイル市場の現状と将来展望」  
(株式会社矢野経済研究所)

# サステナビリティへの対応

- SDGs採択等により、サステナビリティの取組が活発化している中、資源循環や責任あるサプライチェーン管理など、より一層の取組促進を検討するべきではないか。
- 繊維産業では中小企業が多いことから、取引適正化も重要事項として取り組むべきではないか。

## SDGs

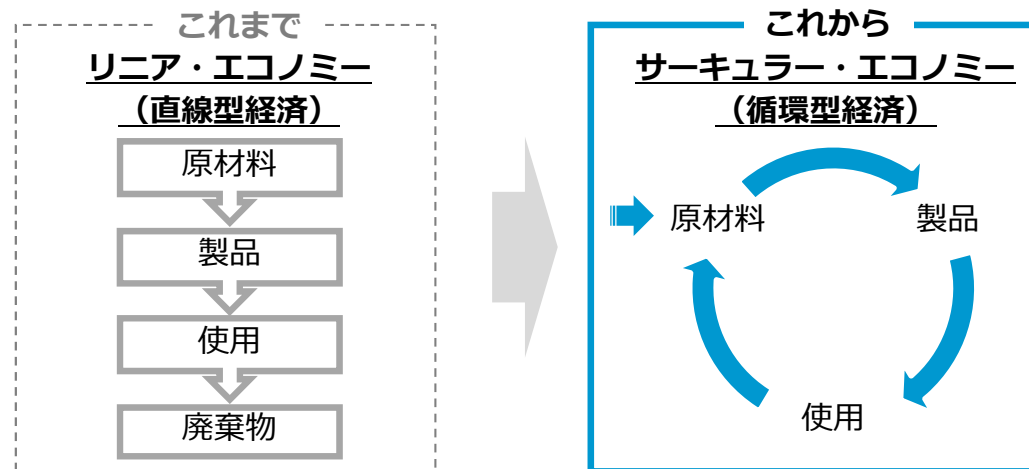
持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。



出所： 国際連合広報センターホームページ

## 資源循環

大量生産・大量消費を前提とした経済から、循環型経済への移行が必要。新たな資源投入量を抑制し、消費活動後の製品を回収・リサイクル等することや、気候変動への対応が重要となる。



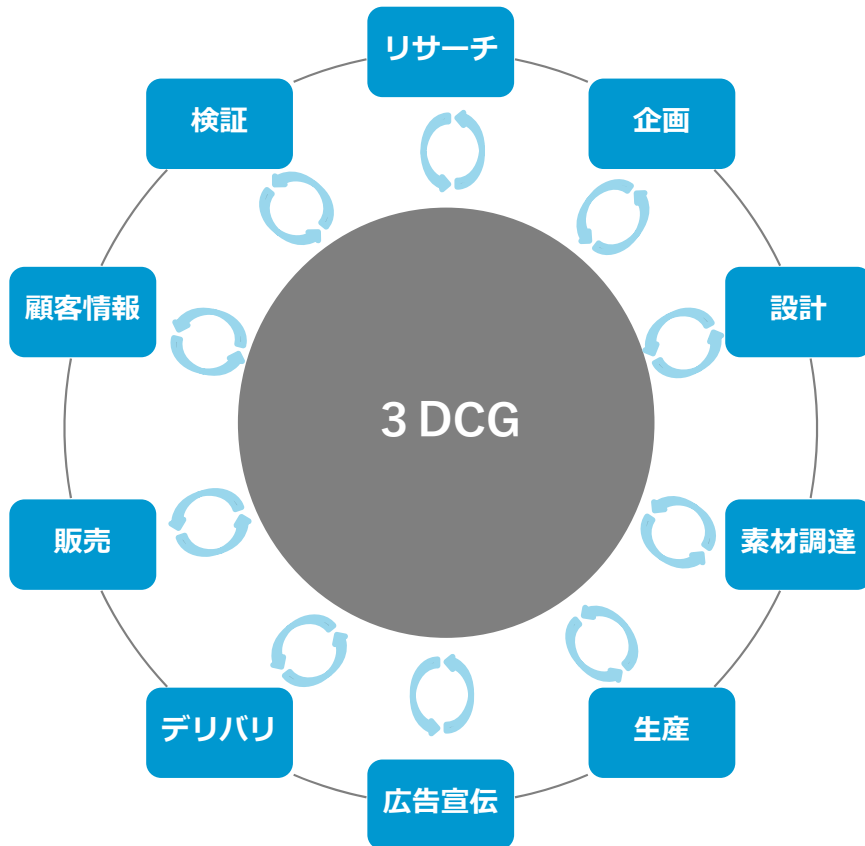
## 繊維産業のサステナビリティに関する検討会

繊維産業におけるサステナビリティの取組を促進するため、経済産業省は2021年2月に「繊維産業のサステナビリティに関する検討会」を設置。同年7月に報告書を取りまとめ、責任あるサプライチェーン管理を進めるためのガイドライン策定等を提言に盛り込んだ。

# デジタル化への対応

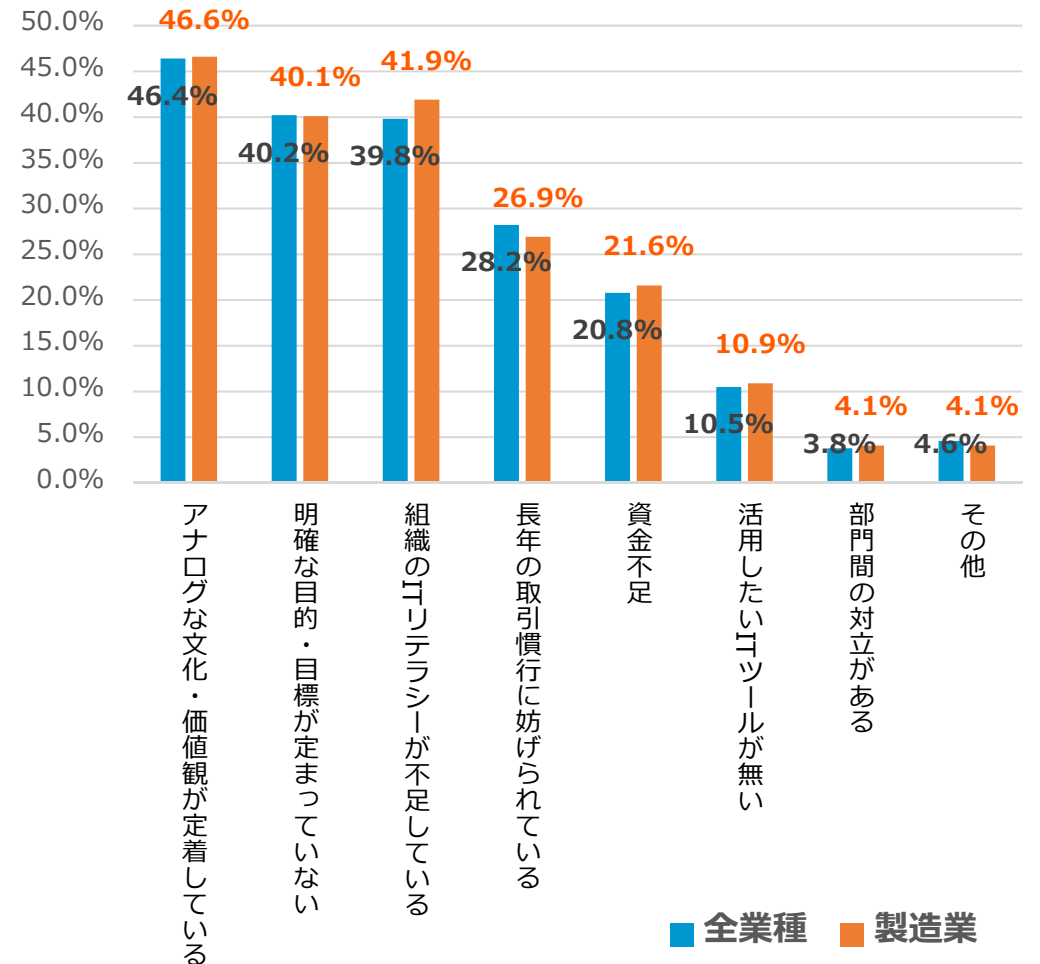
- 3 DCG（三次元コンピューターグラフィクス）を活用した、企画から販売までの情報を管理するシステムの導入や、生産現場でのデジタル化が求められている。
- こうしたデジタル化の取組を、より一層進めていくべきではないか。

## 3 DCGを中心としたPLMイメージ



※ PLM： Product Lifecycle Management（製品ライフサイクル管理）  
資料： 株式会社TFL資料を基に作成

## 中小企業のデジタル化推進に向けた課題



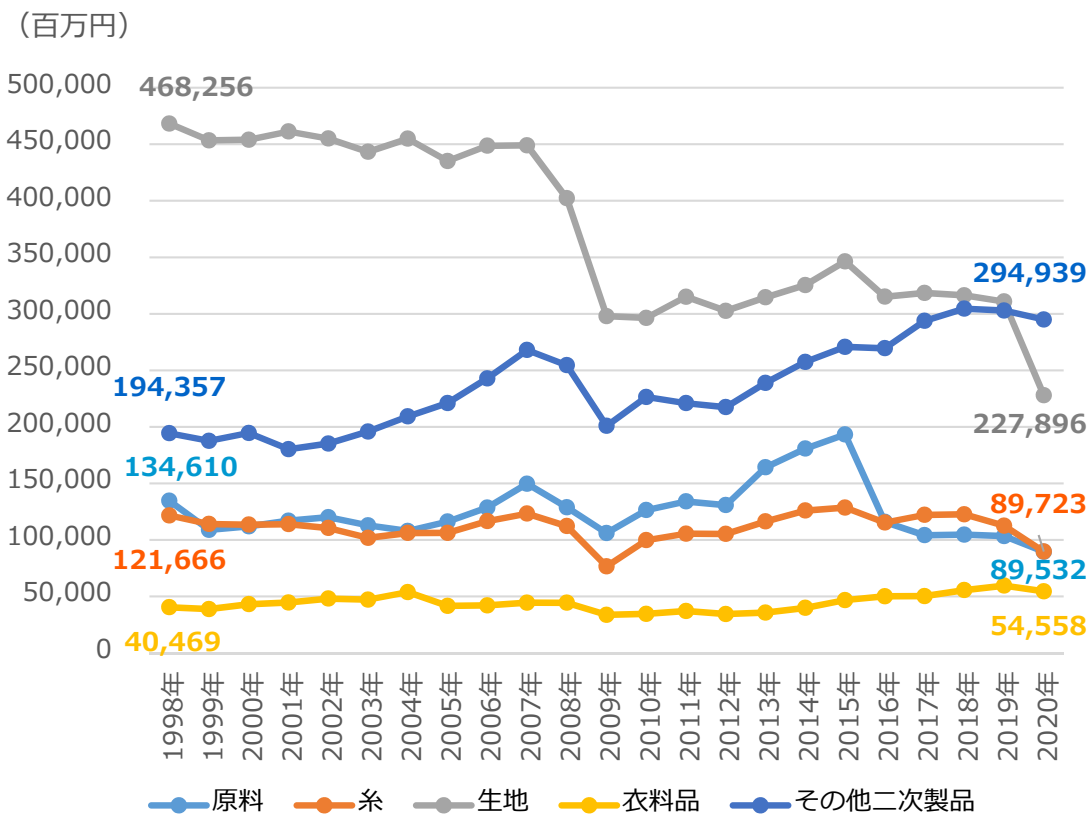
資料： 中小企業白書（2021年版）



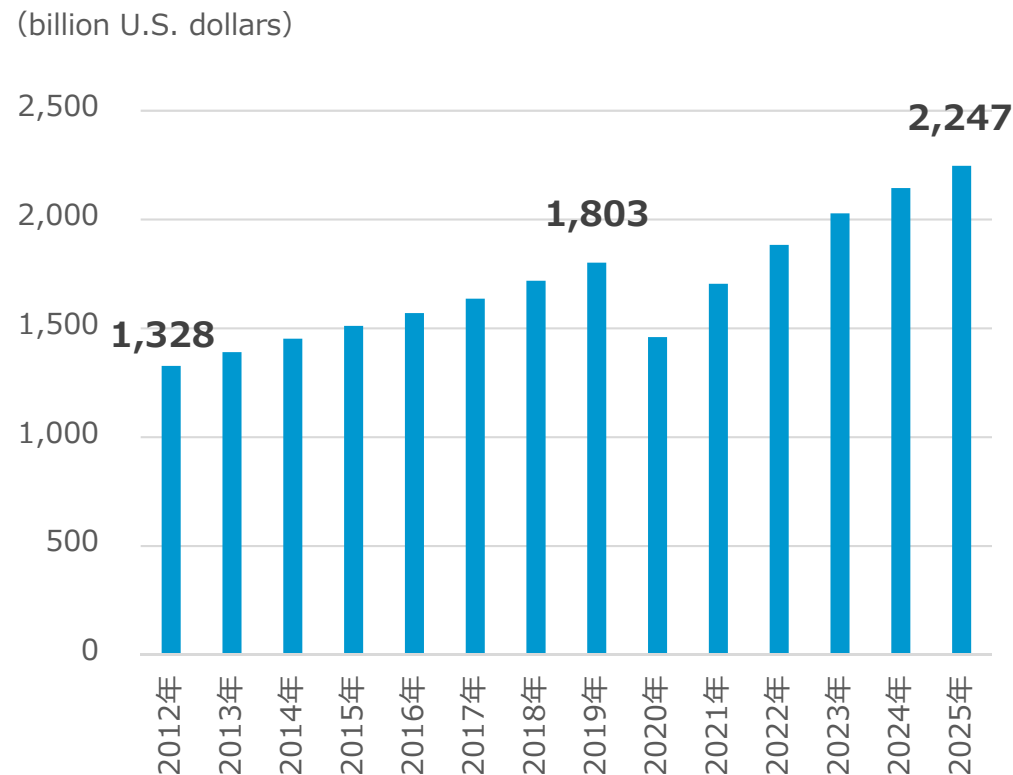
# 海外展開の加速

- 生地等の日本からの輸出が減少する一方、海外市場は今後も拡大することが予測されている。
- 国内の状況も鑑み、生地や衣料品など、海外展開を促進していくべきではないか。

## 日本の繊維関連品目における輸出推移



## 全世界のアパレル業界の歳入の実績値及び推計値の推移



※ 原料： 繭、羊毛、綿、亜麻、合成繊維、再生繊維、半合成繊維等。  
 ※ 二次製品： フェルト、不織布、絨毯、工業用繊維製品、毛布、ベッドリネン等。  
 資料： Global Trade Atlas

※ 2019年までが実績。2020年以降は推計。  
 資料： 令和2年度商取引・サービス環境の適正化に係る事業<新たな文化創造に資する経済社会のエコシステムに係る調査研究事業> 17

# 技術開発の促進

- 産学官が連携して、カーボンニュートラルに対応した技術開発や、スマートテキスタイルなどのヘルスケア分野等への繊維の活用などを目指した技術開発が必要ではないか。

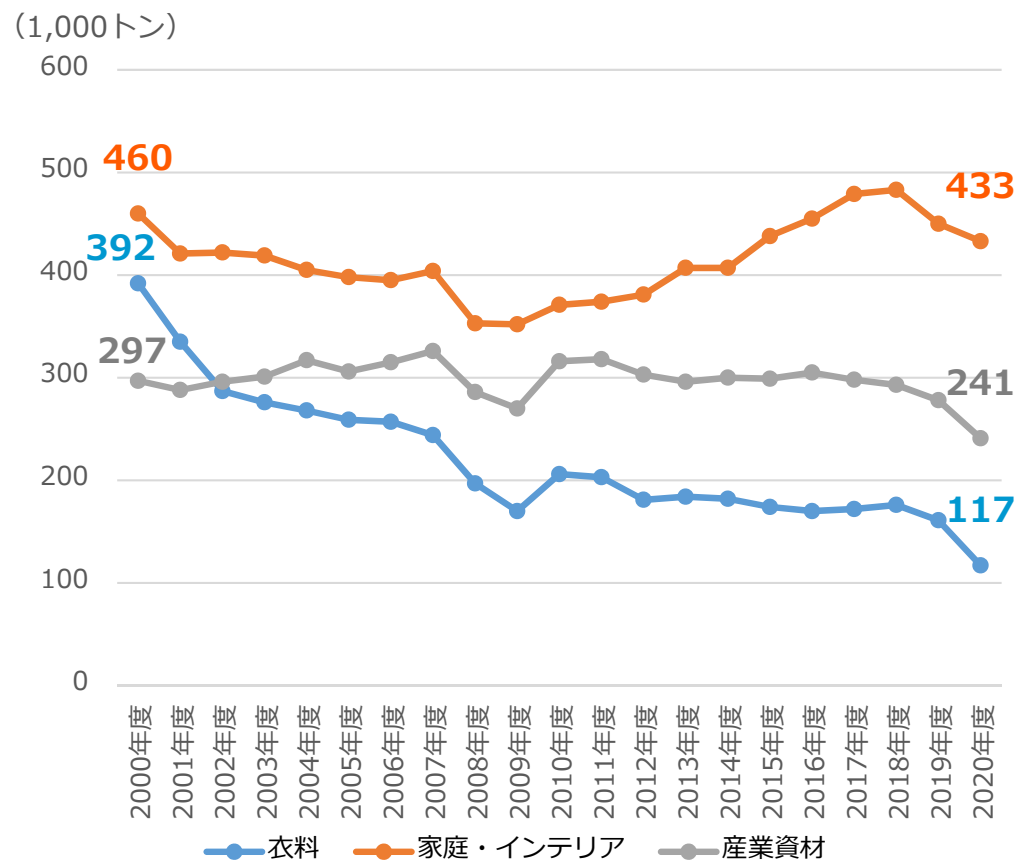
## 超臨界二酸化炭素染色の技術開発

- 従来の染色方法では、多量の水やエネルギーを消費していた。
- 超臨界二酸化炭素染色では、水に代わって超臨界二酸化炭素を利用。
- 多量の水使用がなくなるほか、エネルギー使用量も減少し、サステナビリティなどの観点も含め、技術確立が求められている。



タイ、韓国、中国などの他国でも超臨界二酸化炭素染色の技術開発が行われており、日本での技術開発が急がれる。

## 用途別の化学繊維ミル消費量の推移



※ ミル消費とは、糸・わたメーカーの国内生産（出荷）から輸出量を除き、海外からの糸・わたの輸入量を加えたもの。国内の化合繊メーカーの直接ユーザー（織編段階、産業資材など）の消費量を示す指標。

資料： 日本化学繊維協会ホームページ

1. 繊維産業の現状
2. 本小委員会における主な検討項目（案）
3. 本日までご議論いただきたい内容

# 本日も議論いただきたい内容

- 繊維産業の現状等を踏まえ、検討項目を適切と考えるか。
- 繊維産業の現状等を踏まえ、2030年の繊維産業のあるべき姿を描く上で、こういった要素が重要になると考えられるか。

## 本小委員会における主な検討項目（案）

### ①生産体制の環境整備

- 国内産地の在り方に関する検討
- 人材確保・人材育成の環境整備
- サプライチェーン・リスクへの対応

### ②新しい市場ニーズへの対応

- 新しい販売方法・市場への対応
- サステナビリティへの対応
- デジタル化への対応

### ③新たな市場獲得への体制整備

- 海外展開の加速
- 技術開発の促進